

ベトナムにおける住民参加型森林管理の ステークホルダー分析 —フエ省ホンハ村の事例—

肴倉 玉実

キーワード：ベトナム、森林分配、住民参加型森林管理、ステークホルダー分析

1. 背景と目的

ベトナムは度重なる戦争や人口増加、政府による中央集権的森林管理の失敗によってその森林面積は大幅に減少した。この反省のもと、市民の森林管理への参加を求めため、組織、世帯、個人に森林を分配し始めた。近年では特に、環境保全および住民の生活改善にも効果があるとされている、コミュニティによる森林管理（以下、CFM）を目的としたコミュニティへの森林分配が注目を浴びている。しかしながら、CFMを目指した森林分配は開始されたばかりで、その成功・失敗要因に関する報告はほとんどないのが現状である。本研究では、中部ベトナム、フエ省ホンハ村において世界自然保護基金（WWF）の Green Corridor Project（以下、GCP）の支援のもとで行われた、カンサム集落での森林分配の課題を、各利害関係者への聞き取り調査から明らかにする。

2. 方法

カンサム集落の住民と関係機関のスタッフへの聞き取り調査に加え、二次資料の収集と現地観察を行った。得られたデータをステークホルダー分析の手法を用いて分析を行った。

3. 結果と結論

今回の森林分配の目的は、第一に天然林の保全であり、次いで住民の生活の向上であったにも関わらず、現在のところ村人の生活に改善の兆しは見られなかった。また、森林の管理・保護も十分になされておらず、村人のCFMに対する興味関心は非常に限られていた。森林分配に関わった主な利害関係者間の関係、役割、利害は表1の通りであり、村人が他の利害関係者と建設的な関係を築けていないことが分かる。また、住民にはプロジェクトに関わる重要事項を決める権利がない。さらに、利害に関しても、プロジェクト側の最終的な目的が天然林の保全という点であるのに対し、村人は生活の向上を究極の目的としており、プロジェクト側と住民側の意図に乖離が見られ、CFMに対する住民の理解を得られていないこともわかった。以上、森林分配プロジェクトにおいては住民とプロジェクト側のコミュニケーションが十分にとられていないという課題が明らかになった。

表1 森林分配プロジェクトにおける利害関係者間の関係、役割、利害

	住民	ホンハ人民委員会	在ホンハ森林保護局	アルーイ県森林保護局	農業農村開発局	天然資源環境局	アルーイ県人民委員会	GCP	役割	利害
住民		×	×	×	*	*	*	△	森林の境界設定 森林の貯蔵量計測 植林 森林保護	森林の所有 森林から利益を得る 生活水準の向上
コミュニティ人民委員会	*		*	*	*	*	○↓	*	コミュニティ側の森林分配決定者	村人に雇用機会を与える 村人の生活の向上
ホンハ森林保護局	×	*		○↓	*	*	*	○	森林の貯蔵量計測	違法伐採からの森林保護 森林火災防止
アルーイ県森林保護局	△	*	○↑		○	○	○	○	森林分配の実質的実施者	持続的森林管理
農業農村開発局	*	*	*	○		○	○	*	土地利用計画策定 森林分配の実行可能性についての検討	策定した土地利用計画の実施
天然資源環境局	*	*	*	○	○		○	*	森林分配の実行可能性についての検討	持続的天然資源管理
アルーイ県人民委員会	*	○↑	*	○	○	○		○	森林分配の承認 経過の監督 証明書の交付	住民の福利厚生 の向上 法令順守
GCP	△	○	○	○	○	○	○		GCPの企画者	グリーンコリドー内の貴重な景観の保全

○ 良好 × 不良 △ 普通 * 不明 ↑ 上位組織 ↓ 下位組織

